自殺予防のための介入ポイントについて

国立精神･神経センター精神保健研究所
自殺予防総合対策センター長
竹島　正

自殺総合対策大綱
第4: 自殺を予防するための当面の重点施策

1.自殺の実態を明らかにする

(1) 実態解明のための調査の実施

社会的要因を含む自殺の原因･背景、自殺に至る経過、自殺直前の心理状態等を多角的に把握し、自殺予防のための介入ポイント等を明確化するため、いわゆる心理学的剖検の手法を用いた遺族等に対する面接調査等を継続的に実施する。

自殺予防総合対策センターにおける心理学的剖検

17年度フィージビリティスタディ
（実現可能性調査）

北京自殺研究・予防センターの実施した心理学的剖検調査（症例・対照研究）の調査票をもとに、フィージビリティスタディに使用する調査票を開発。5事例に実施した結果、改善すべき点はあるものの、半構造化面接による心理学的剖検の手法を用いた調査は実施可能であり、18年度にはパイロットスタディに進むことができるとの評価を得た。

↓

調査方法の調整

↓

18年度パイロットスタディ

フィージビリティスタディの成果を踏まえて、調査票を修正し、全国11自治体の協力を得て、事例群28対照群26による症例対照研究を実施した。数量的分析、精神医学的診断の可能性の評価を行い、本格的な調査におけるライフチャート作成・分析方法の方向性を明らかにした。

↓

調査方法の再調整

↓

19年度～
自殺予防と遺族支援のための
基礎調査

パイロットスタディの成果を踏まえて、調査マニュアルと調査票の作成、調査員トレーニングを行い、全国53自治体の協力を得て調査を実施中である（平成21年9月末現在65事例）。

自殺の危険因子に関する検討

	調査項目	n	%
精神疾患の診断あり（精神科医の臨床的判断）		31	(88.6%)
自殺関連行動の既往ならびにその家族歴	自傷・未遂歴	8	(22.9%)
	失踪歴	6	(17.1%)
	過去1年間の事故	4	(11.4%)
	親族の自殺企図歴	18	(51.4%)
社会的問題	転職歴	19	(54.3%)
	休職歴（1ヶ月以上の休職の有無）	9	(25.7%)
	返済困難な借金経験	7	(20.0%)
医学的問題	過去1年間の精神科受診歴	16	(45.7%)
	重症の身体疾患歴	10	(28.6%)
	その他の身体症状	22	(62.9%)
	睡眠障害	25	(71.4%)
	過去1年間のアルコール問題	10	(28.6%)

平成20年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「心理学的剖検データベースを活用した自殺の原因分析に関する研究」（研究代表者　加我牧子）総括・分担研究報告書による（一部改変）

自殺について

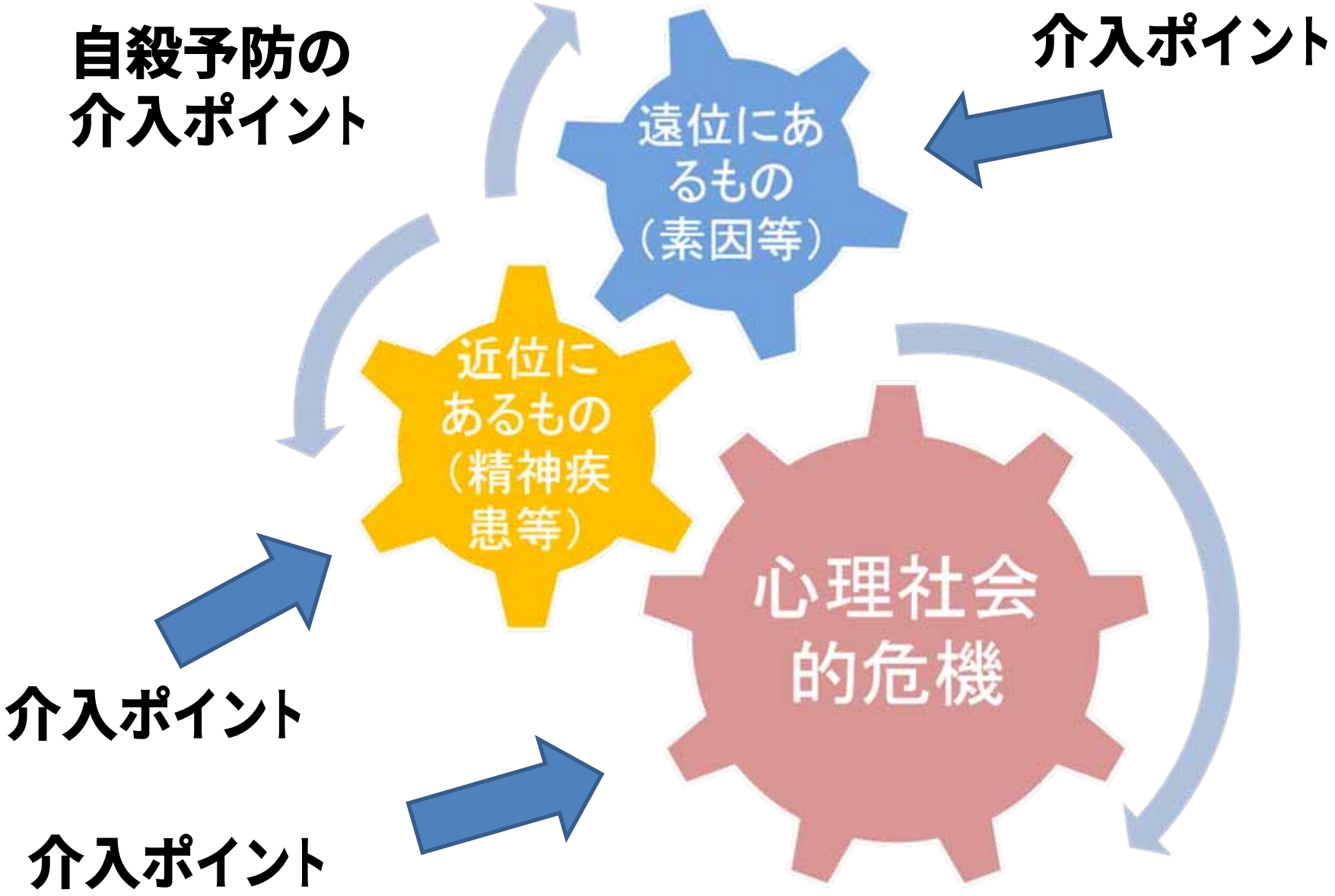
- 多くの国々で高齢者は自殺死亡率が高いが、過去50年で見ると高齢者の自殺死亡率は減少し、若年者の自殺死亡率は増加している（いくつかの先進国では、高かった若年者の自殺死亡率が減少）。
- 自殺の危険因子の遠位にあるものとしては、遺伝、パーソナリティ（衝動性、攻撃性）、胎児期の成長と周産期の環境、幼少時のトラウマ、神経生理異常、近位にあるものとしては、精神疾患、身体疾患、自殺手段の入手しやすさ、モデルへの暴露がある。
- 無職者の自殺死亡率は高いが、無職者には精神疾患が多い等、関連する要因が複雑であることを考慮する必要がある。
- 自傷または自殺未遂歴は、最も大きな自殺の危険因子である。
- 自殺の前には、多くの場合、対人関係や健康の問題が先行する。

Suicide: Keith Hawton, Kees van Heeringen
www.thelancet.com vol373

自殺のストレス-素因モデル

ストレッサー		素因
精神疾患		絶望感
	自殺行動	
心理社会的危機		衝動性または攻撃性

Suicide: Keith Hawton, Kees van Heeringen
www.thelancet.com vol373


自殺予防の
介入ポイント
介入ポイント
遠位にあるもの（素因等）
近位にあるもの（精神疾患等）
心理社会的危機
介入ポイント
介入ポイント

これまでの分析

■「自殺予防のための介入ポイント」を多角的に明らかにするために、視点を変えて分析を行った。

- 青少年（30歳未満）
- 死亡時の就労状況（有職群/無職群）
- 死亡時の負債（負債群/非負債群）
- 死亡1年前のアルコール関連問題（AL問題群/非AL問題群）
- 死亡前の精神科治療（受診群/非受診群）

青少年（30歳未満）

- 事例数は15（男8　女7）、平均年齢は23.7歳（SD=4.42）であった。
- 12事例（80.0%）は、死亡時に、DSM-Ⅳに該当する精神疾患に罹患していたと考えられた（統合失調症2　気分障害6　物質乱用2　等）。
- 学校時代に8事例（53.3%）が登校拒否を、8事例（53.3%）がいじめを経験していた。

YOTARO KATSUMATA，他：School problems and suicide in Japanese young people（投稿中）

死亡時の就労状況（有職群/無職群）

	有職群（31事例）	無職群（15事例）
性別	男性が93.5%	男性が60.0%
年代	40～50代が多い	20～30代が多い
婚姻	既婚者が多い	未婚者が多い
社会的問題	死亡前1年以内のアルコール関連問題、返済困難な借金	
精神疾患への罹患	93.5%	73.3%
精神疾患の内訳	気分障害に次いで アルコール使用障害が多い	気分障害に次いで 統合失調症・精神遅滞・薬物使用障害が多い

赤澤正人，他：死亡時の就労状況から見た自殺既遂者の心理社会的類型について－心理学的剖検を用いた検討（投稿中）